

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

麦類赤かび病の防除対策（技術情報第1号）について（送付）
このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、業務の参考に御活用ください。

記

今後、麦類の赤かび病が発生しやすい気象条件が継続すると予想される。
麦類は、ほ場によって生育の差があるため、ほ場をよく観察し、生育ステージに合わせた適期防除に努める。

1 発生条件

- （1）赤かび病菌は、春季の気温の上昇と降雨により孢子形成と飛散が促進される。今年
は、広い地域で飛散しやすい条件がすでに整っていると想定される（表※）。
- （2）熊本地方気象台の発表（4月7日5時）によると、県内の向こう6日は曇雨天の日
が多い。福岡管区気象台の発表（4月2日発表）によると、向こう1か月（4月4日
～5月3日）の気温は平年より高く、降水量は平年より多い予想であるため、本病の
感染に好適な条件の日が続くと予想される。

2 防除対策

- （1）開花以降の降雨が感染を助長するため、降雨前に予防的な薬剤散布を行う。1回目
の防除適期は、小麦と裸麦では開花始め～開花期（1穂につき数花開花している穂数
が40～50%に達した日、目安：出穂後7～14日頃）、二条大麦では穂揃い期（全茎の
80～90%が出穂した日）の10日後頃（目安：出穂後12～14日頃）である。
- （2）合志市における出穂期は小麦・大麦とも平年より2～3日程度早い。麦類の生育は、
同じ地域内でもは種日や品種等によって差があるため、ほ場をよく観察し、防除適期
を逃さないように注意する。
- （3）開花期の感染（花器感染）は不稔になるが、充実し始めた後の感染は被害粒として
収穫物に混入しやすい。かび毒を抑えるため、1回目防除の7～10日後に2回目の防
除を行う。降雨が続く場合でも天候回復後速やかに防除を行う。
- （4）農薬を使用する際は、必ずラベルなどで使用方法を確認し、登録がある農薬を使い、
収穫前使用日数や使用回数、希釈倍数等を遵守する。また、ミツバチや魚介類など周
辺動植物及び環境へ影響がないよう、飛散防止を徹底するとともに、事前に周辺の住
民や養蜂業者等へ薬剤散布の連絡を行うなど、危害防止に努める。

※アメダス実測値を用いた赤かび病多発条件出現日の判定結果を病害虫防除所のホーム
ページ (<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/75/125504.html>) に掲載し、随時更
新します。

表 麦類赤かび病の多発条件出現日（令和8年4月7日現在）

月/日	本年(R8)			前年(R7)			多発年(R6)		
	菊池市	熊本市	人吉市	菊池市	熊本市	人吉市	菊池市	熊本市	人吉市
3/19		○							
3/20									
3/21									
3/22		○							
3/23	◎	◎	◎				◎	◎	◎
3/24		○	○	◎		○	●	●	◎
3/25	◎	◎	◎	●		○	◎	◎	●
3/26	○	○	○				○	○	○
3/27				●	●	●		○	
3/28				○	◎	○	◎	◎	
3/29							◎	◎	○
3/30	○	◎	○				◎		○
3/31	◎	◎	◎					●	○
4/1								●	◎
4/2		○	○				○	◎	○
4/3							●	●	◎
4/4	◎	◎	◎				◎	◎	◎
4/5	○	◎	○		○		◎	◎	◎
4/6				○	○	○	◎	◎	◎
4/7					○		◎	◎	◎
4/8							◎	●	◎
4/9							◎	◎	◎
4/10				◎	●	◎	○	○	○
4/11				○	◎	◎			
4/12				○	○	○			
4/13					○				◎
4/14					○				○
4/15							●	●	◎
4/16				○	○	○	●	●	●

○：子のう殻形成の好適条件日（日平均気温 13℃以上かつ当日または前日に降雨があった）

◎：子のう胞子飛散の好適条件日（日平均気温 15℃以上、日最低気温 10℃以上かつ当日または前日に降雨があった）

●：多発条件日（日平均気温が 18℃以上かつ当日または前日に降雨があった）

熊本県病害虫防除所
 (熊本県農業研究センター生産環境研究所内)
 担当：清永 TEL 096-248-6490